

各位

会社名 シンデン・ハイテックス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 鈴木 淳
 (コード番号: 3131)
 問合せ先 取締役(管理本部管掌) 田村 祥
 (フリーコール: 0800-5000-345)

通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、以下のとおり、最近の業績動向を踏まえ、2019年5月14日に公表しました2020年3月期通期業績予想を、2020年4月24日開催の取締役会において、下記のとおり修正することを決議いたしましたのでお知らせします。

記

●業績予想の修正について

1. 2020年3月期通期連結業績予想数値の修正(2019年4月1日~2020年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 41,500	百万円 700	百万円 450	百万円 300	150円27銭
今回修正予想(B)	44,277	496	291	185	92円88銭
増減額(B-A)	2,777	△203	△158	△114	
増減率(%)	6.7%	△29.1%	△35.2%	△38.2%	
(ご参考)前期実績(2019年3月期)	46,102	626	299	209	102円09銭

2. 業績予想の修正理由

2020年3月期の通期業績に関しまして、2019年5月14日に公表しました通期業績予想を、修正する理由は以下のとおりとなります。

(1) 全般的概況

当連結会計年度は、米中貿易摩擦の影響により中国向けの生産用機械をはじめとする産業用機器向けビジネスの縮小、前年度より継続しているメモリ価格の下落、海外子会社のボリュームビジネスの縮小等、厳しい外部環境の中でのスタートとなりました。これらの環境に対応すべく新規半導体ビジネスの獲得や、リチウムイオンバッテリービジネス拡大等、業績の確保に注力した結果、本年2月までは概ね想定どおり推移しておりました。しかし、3月に入り、世界的な新型コロナウイルス感染症の蔓延によるサプライチェーンの寸断により、一部大手顧客の生産計画の見直しによる在庫処理を実施(損失額132百万円)したことが主な要因になり、業績に影響を受ける事態となりました。

(2) 売上高

年度を通して産業用機器向けビジネスの縮小、メモリ価格の下落基調、海外子会社のボリュームビジネスの減少を、新規半導体ビジネスの獲得や、リチウムイオンバッテリービジネス等の拡大でリカバリーしました。その結果、売上高は44,277百万円(前回発表予想値より2,777百万円増、6.7%増)を見込んでおります。

(3) 営業利益

比較的利益率の高い産業用機器向けが縮小したところに、(1) 全般的概況に記載の3月に発生した損失により、売上総利益を圧縮しました。

そして、新規半導体ビジネスを含め、各種ビジネスの開拓及び推進にかかる協力企業への手数料が増加したことが主な要因となり、販売費及び一般管理費が想定より増加しました。その結果、営業利益は496百万円（前回発表予想値より203百万円減、29.1%減）を見込んでおります。

(4) 経常利益

営業利益の減少及び期中における外貨借入額の増加により支払利息が増加した一方で、為替差益を91百万円計上する見込みとなりました。その結果、経常利益は291百万円（前回発表予想値より158百万円減、35.2%減）を見込んでおります。

(5) 親会社株主に帰属する当期純利益及び1株当たり当期純利益

特別損益の発生は見込まず、その結果、親会社株主に帰属する当期純利益は185百万円（前回発表予想値より114百万円減、38.2%減）、1株当たり当期純利益は92円88銭を見込んでおります。

3. 配当予想について

2019年5月14日に公表しました1株あたり45円00銭としておりました2020年3月期の配当予想は、現段階で変更の予定はございません。

今後、確定した業績と配当方針を総合的に勘案したうえ2020年3月期定時株主総会への上程議案として、2020年5月開催の取締役会で配当金額を決議いたします。正式に決定いたしましたら別途お知らせ申し上げます。

(注) 上記の予想に関する記載は、本資料の作成時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績及び配当に関する事項は今後の様々な要因により、本記載数値と異なる可能性があります。

以 上